

クビレツタ陸上養殖の推進

南 洋 一

1. 実施状況

平成10年度において佐和田漁港内のクビレツタ陸上養殖場において周年養殖実験を行った。母藻は平良市漁協の儀保正司氏が提供し、①ネットロンネットに挟み込んで吊り下げる方法②籠に入れて吊り下げる方法③止水状態のタンクにそのまま放り込む方法で実験を行った。①～③のいずれにも水耕栽培用の固形肥料を入れ①と②については下からエアーをあてた。

7月から9月にかけては照度が1万ルクスを越え、水温も30度を超えたため、珪藻が発生しタンクやクビレツタに大量に付着していた。珪藻が大量につくと成育速度が遅くなるので珪藻付着のひどいものは破棄していたりしていた。それで遮光ネット(50%)を取りつけて照度を調整した。それでも珪藻は付くため時々取りあげて手洗いで珪藻を取り除いていた。③については珪藻は全く付着せず、かなり成育がよかった。

10月にはいると①の方式はかなり労力がいるためすべて②の方式に変えた。10月3日時点で珪藻が大量に付着したクビレツタを別のタンクに移すと2～3日で自然に珪藻がなくなってきれいになった。原因を調べたところ、このタンクにおいてはヨコエビが大量発生していることがわかった。ヨコエビはクビレツタを食い荒らしている様子はなく、むしろクビレツタの成育はかなりいいのでこれが珪藻を食べているのではないかと推測された。10月が一番クビレツタの成育はよく②も③も増えた。

11月時点では肥料を入れていないタンクのものがかたまって枯れかかっていたが、肥料を入れれば回

復した。③は相変わらず成育はよかった。

12月の初旬には②も③も枯れ始め、中旬にはほとんど枯れてしまった。水温は20度を下回っていないが照度が1,000ルクスを毎日下回るため、これが、一番の原因と考えられた。

2. 問題点と今後の課題

結果としては周年養殖実験は失敗に終わってしまった。原因としては照度の低下が考えられる。施設の構造上の問題があり本来は施設全体が透明でなければならないのだが、天井までもが半分は光を通さず、もう半分も半透明である。成功させるためには天井をすべて透明な材質のものに張り替える必要がある。そうしたうえで7月から9月にかけては遮光ネットで照度を調整し、珪藻が大量に付着してもすぐには捨てず、ヨコエビを投入することなど考える。次年度以降の展開としては平成11年度においては久松漁港で水産業構造改善推進事業で架設ハウスを設置し、クビレツタ陸上養殖実験をすることが内定しているので10年度の結果を踏まえた上で、周年養殖を成功させる。



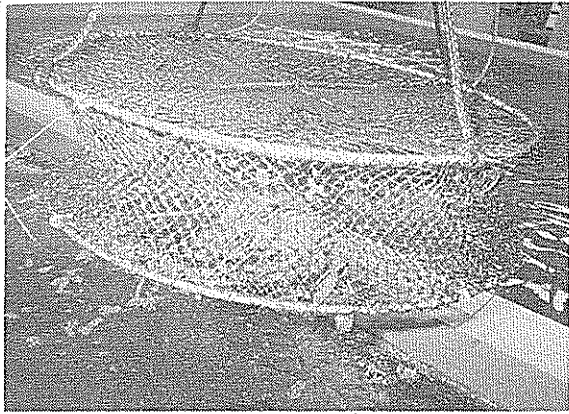
佐和田漁港内のクビレツタ陸上養殖場



天然のクビレツタ (母藻)



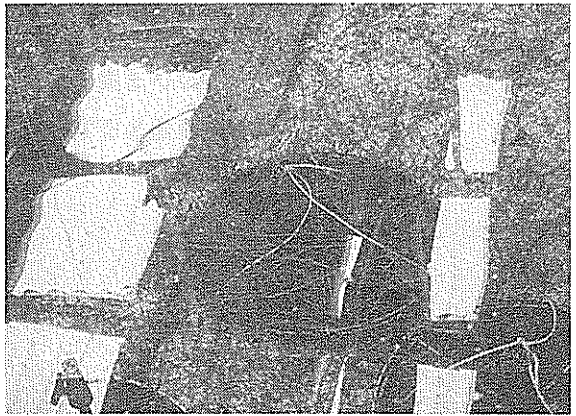
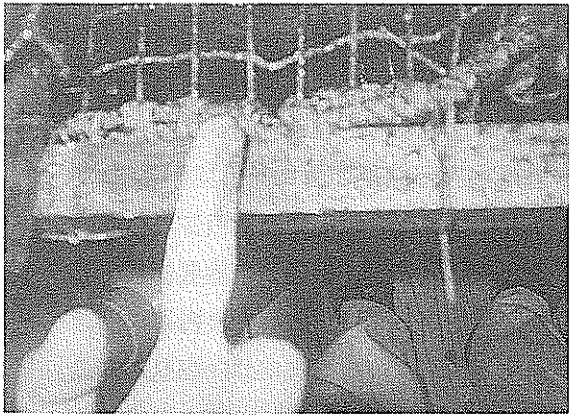
ネトロンネットに挟み込んで吊り下げる方法



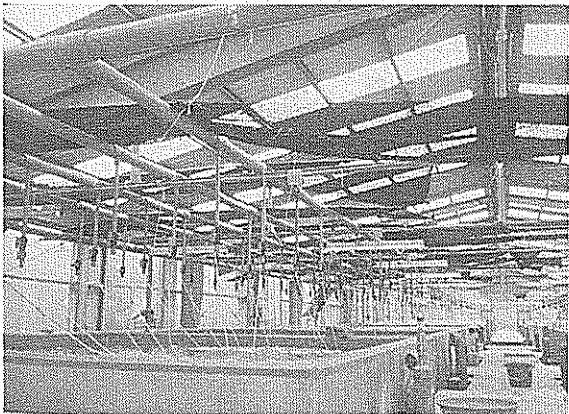
籠に入れて吊り下げる方法



止水状態のタンクにそのまま放り込む方法



珪藻が大量に発生した



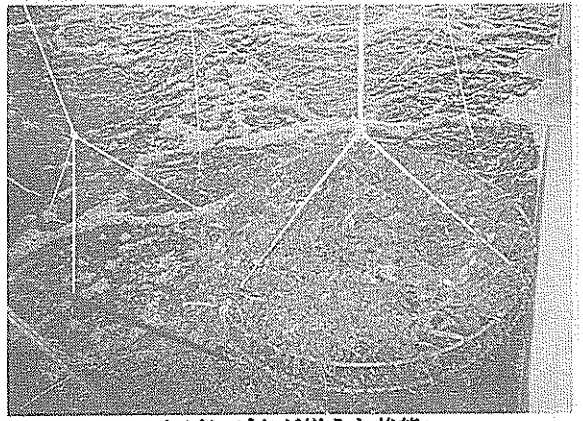
遮光ネットで照度を調整



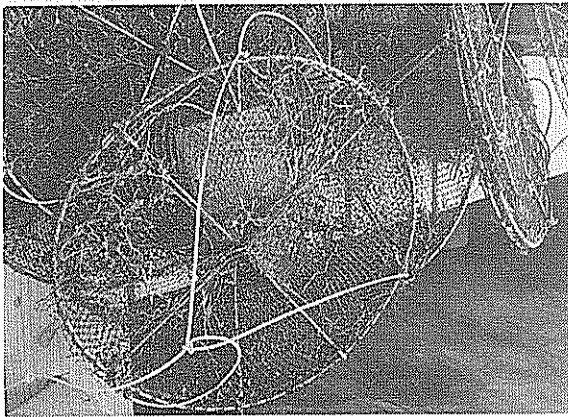
ヨコエビ



クビレツタが増えた状態



クビレツタが増えた状態



枯れた状態